

令和3年 網走市議会  
令和3年度予算等審査特別委員会会議録  
第6号 令和3年3月17日（水曜日）

○日時 令和3年3月17日  
午前10時00分開議

○場所 議場

○出席委員（15名）

委員長	山田庫司郎
副委員長	立崎聡一
委員	石垣直樹
	小田部照
	金兵智則
	川原田英世
	工藤英治
	栗田政男
	近藤憲治
	澤谷淳子
	永本浩子
	平賀貴幸
	古田純也
	松浦敏司
	村椿敏章

○欠席委員（0名）

○委員外議員（0名）

○説明のため出席した者

市	長	水谷洋一
副市	長	川田昌弘
企画総務部	長	岩永雅浩
市民環境部	長	酒井博明
健康福祉部	長	桶屋盛樹
農林水産部	長	川合正人
観光商工部	長	田口徹
建設港湾部	長	吉田憲弘
水道部	長	脇本美三
庁舎整備推進室	長	後藤利博
企画調整課	長	北村幸彦
総務防災課	長	田邊雄三
財政課	長	古田孝仁

戸籍保険課	長	清杉利明				
介護福祉課	長	高橋善彦				
水産漁港課	長	渡部貴聴				
港湾課	長	梅津義則				
営業経営課	長	野呂俊広				
営業経営課	参事	佐々木修司				
上水道課	長	柏木弦彦				
下水道課	長	中村昭彦				
-----						
教	育	長	三島正昭			
学	校	教	育	部	長	林幸一
社	会	教	育	部	長	吉村学

○事務局職員

事	務	局	長	武田浩一			
事	務	局	次	長	伊倉直樹		
総	務	議	事	係	長	神谷浩一	
総	務	議	事	係	主	査	寺尾昌樹
						係	早渕由樹

午前10時00分開議

○山田庫司郎委員長 おはようございます。

本日の出席委員は15名で、全委員が出席しております。

ただいまから、本日の委員会を開きます。

それでは、早速、本日の日程であります特別会計及び公営企業会計に関する細部審査に入ります。

また、関連であります議案第12号についても、併せて審査をいただきます。

質疑のある方、挙手を願います。

澤谷委員。

○澤谷淳子委員 おはようございます。

それでは早速、予算説明書の213ページの買物リハビリ事業なのですが、この事業は昨年からはじまった事業でした。改めてサービスの内容を伺います。

○高橋善彦介護福祉課長 事業の内容でございますが、買物を通じた身体機能の維持向上や脳の活性化を図ることを目的に、通所介護事業所の送迎

バスの空き時間を利用して、スーパーマーケットへの送迎及び付添い支援を行うものであります。

また、会場におきましては作業療法士による軽体操や講話、利用者の動作評価、指導を行うとともに通所介護事業所所属の運転手とサービス介助士の資格を有するボランティアさんが買物の付添いをするものでございます。

**○澤谷淳子委員** 本当にすばらしいサービスで、利用状況も教えていただいていいでしょうか。

**○高橋善彦介護福祉課長** 利用状況についてでございますが、対象となる要支援認定者及び基本チェックリストによる生活機能の低下が見られた方としまして、令和2年度は1か所当たり各5名、計10名にて実施しているところでございます。

事業の実施につきましては、駒場地区のスーパーマーケット3店舗を会場に行っております。

**○澤谷淳子委員** 本当にその商業施設へ今ヘルパーの方というか、ボランティアとおっしゃっていましたが、その方もついてくれて付添い支援してくれるということで、大変いいサービスだと思います。ちなみになのですけれども、訪問ヘルパーさんが行っている買物支援サービスも今もありますよね。その、こちらのリハビリのデイサービスとかでやってくれているやつ、今やってもらっているのですけれども、それもやっぱりまだある程度一定の利用者はまだ買物サービスも使っている方はまだいらっしゃいますか。

**○高橋善彦介護福祉課長** 訪問介護によります生活支援ですけれども、こちらに関しましては買物支援というような形でサービスは使われている方はいらっしゃいます。

**○澤谷淳子委員** このリハビリ事業が始まってまだ1年しかたっていないのですけれども、今聞きましたのはどちらもやっているというのが大変すばらしいなと思っています。理解いたしました。

ではちょっと次の質問で、同じく213ページの高齢者等さわやか収集事業、こちらも改めて事業内容をちょっとお伺いしたいと思います。

**○高橋善彦介護福祉課長** 事業の内容でございますが、こちら家庭から排出されるごみをごみステーションに出すことが困難な高齢者等世帯を対象としまして、安否確認と併せたごみの個別収集を行うものでございます。

事業実施につきましては、シルバー人材センター、民間事業者、町内会に委託し実施しているところでございます。

**○澤谷淳子委員** そういう応援してくれるというのはわかっていたのですけれども、改めてそういう陰の配慮をしていたというのは本当にすごいことだなと思いました。

それで、自分も含めて高齢の方が年々増加すると思うのですけれども、このさわやか収集事業も昨年より200万円ぐらい予算が増えています。やっぱり年々増加していくのかなと思うのですが、ごみ分別をやっていく上で本当に必要な予算だなと思いました。何か見込みといたしますか、これぐらいまでのような数字というのはおありなのでしょうか。

**○高橋善彦介護福祉課長** 今後の見通しといったところでございますが、数字的なところはちょっと御用意はしていないのですけれども、今後支援を必要とする高齢者の増加が想定されますことから、サービス利用の需要はますます高まり、現在の体制では事業費が増大していくものと考えられるところでございます。このようなことから、現在少数ではありますが、町内会に担っていただいている地域もありますことから、町内会等団体への事業周知を継続するとともに、様々な実施主体を検討しながら事業を継続してまいりたいと考えております。

**○澤谷淳子委員** 本当に陰でやってくれていた方々に本当に感謝したいと思います。さわやか収集のネーミングもすごくいいなと思いました。引き続き、よろしくお願いいたします。

それでは、217ページの寝たきり高齢者等介護用品支援事業、こちらなのですけれども、介護用品支援事業ということで、直接介護用品を届けてくれるというか、そういう形なのかなと思っていたのですけれども、この内容もちょっと説明していただけますか。

**○高橋善彦介護福祉課長** 介護用品支給事業についてでございますが、支給の方法につきましては償還払いの方法となりまして、申請書と介護用品を購入したことがわかる領収書の提出が必要となりまして、書類等審査後指定口座へ振り込むこととしております。

**○澤谷淳子委員** わかりました。

すみません。名前にこだわるわけではないので

すけれども、これは寝たきり高齢者等となっていたので、要介護4になった時点で、寝たきりではなくても要介護4の方いるのですけれども、その方もおむつとかそういう領収書を添付して申請すると大丈夫なのでしょうか。

**○高橋善彦介護福祉課長** こちら対象者ですけれども、在宅で生活するおおむね65歳以上の方で要介護4または5と認定された方、また前年度の市民税が非課税の方などが対象となっております。

**○澤谷淳子委員** それでは、その申請をする場合、毎月レシートで申請というか、というよりも1年間分を申請する形ですか。

**○高橋善彦介護福祉課長** 申請につきましては、随時受け付けておりますので、まとめて申請される方もいらっしゃいますし、毎月申請される方も現在いらっしゃいます。

**○澤谷淳子委員** それでは、年間の上限額というかそういうのは、今おっしゃっていただきましたか。

**○高橋善彦介護福祉課長** 申し訳ございません。年間の上限額についてはお伝えしていなかったのですが、購入費につきましては月額5,000円、年間6万円を上限に支給しております。

**○澤谷淳子委員** よく理解しました。

それでは最後に、予算が少し増えたのですけれども、昨年コロナ禍で認知症サポーター養成事業はあったのでしょうか。

**○高橋善彦介護福祉課長** 認知症サポーター養成事業ですが、こちらは継続して実施し、令和3年度につきましても実施する予定でございます。

**○澤谷淳子委員** 了解しました。

私の質問は以上です。

**○山田庫司郎委員長** 次、古田委員。

**○古田純也委員** 予算書215ページ、高齢者ふれあい支援事業についてお尋ねいたします。

改めて事業内容をお伺いいたします。

**○高橋善彦介護福祉課長** 高齢者ふれあい支援事業の内容でございますが、高齢者の介護予防や閉じ籠もり防止を目的とした事業でありまして、地域住民によるボランティア団体を設立し、各地域に高齢者ふれあいの家を開設するものでございます。

現在、市内に14か所開設されております。

**○古田純也委員** ありがとうございます。

コロナ禍におきまして、なかなか活動時間が午

前中というふうに限られるようになりまして、参加者人数もなかなか減ってきているようなお話をよく聞きます。この際だから、やっぱりきちんと興味を抱くような活動などと呼びかけるという意味では、なかなかマンネリ化しているようなお話も聞きますが、その辺情報提供とかツールの活用、何か市としての考え方というのはどうされているのですか、お尋ねいたします。

**○高橋善彦介護福祉課長** 活動の内容につきましては、14か所様々でございまして、ボランティアさんの創意工夫により体操や歌、詩吟、マージャン、トランプ、ふまねっと運動などに現在取り組んでいただいている状況でございます。

市としましては、週1回のふれあい事業の実施を定めておりますが、活動内容につきましては固定化してしまいますと面白みがなくなるといった観点から、取組内容はボランティアさんにお任せして実施をしていただいておりますが、先ほど委員おっしゃるとおり、現在コロナ禍により食事の提供も行っておらず、午前中のみとなっております。活動内容も縮小している状況もありますので、利用者さんからは物足りないといったことも推察されるところでございます。

このような中、自粛生活によりますフレイル予防の観点から、令和3年度につきましては全ての高齢者のふれあいの家にリハビリテーション専門職を派遣しまして、ボランティアさんと利用される方への心身機能の維持や介護予防に資するプログラムを提供する取組や保健師や管理栄養士、歯科衛生士による健康教育の実施についても予定しているところでございます。

また、スマートフォンの利活用などデジタル時代に向けた講座を開催することも検討してまいりたいというふうに考えております。

**○古田純也委員** 大変興味深い内容をお聞きしまして、本年度期待する事業だと思います。

私からの質問は以上です。

**○山田庫司郎委員長** 次、村椿委員。

**○村椿敬章委員** それでは、質問に入らせていただきたいと思います。

まず最初は、網走港整備特別会計についてであります。

まず最初に歳入について、用地使用料、上屋などの料金について、それぞれの収入について伺いたいと思います。決算見込みでお願いします。

○梅津義則港湾課長 用地使用料等の決算見込みについてでございますが、用地使用料としては3,500万円、上屋使用料が1,820万9,000円、給水使用料が160万円、土地売却収入が300万円、賃地料が1,637万2,000円となっております。

○村椿敏章委員 用地使用料が3,500万円、当初予算上では2,800万円ぐらいだったと思うのですが、この増えた理由は何なのでしょう。

○梅津義則港湾課長 当初予定していなかったところで借りてくれたところがありまして、その分が増額となっております。

○村椿敏章委員 わかりました。

上屋使用料も前年度の予算では1,820万円ですが、それに対して1,920万円で100万円ほどこも増えているのですけれども、これについてはどういう内容か伺います。

○梅津義則港湾課長 上屋使用料につきましても、ちょっと昨年度とは借主が変わったところですか、そういったところがございます、その分が増額となっております。

○村椿敏章委員 わかりました。

次に、網走港の港湾計画では昭和53年の当初は計画の目標が外貿で50万トン、そして内貿で1,700万トンで始まっております。昭和63年に目標を外貿80万トン、内貿2,000万トンまで引き上げました。しかし、その後何度か下方修正して、平成21年には外貿20.6万トン、内貿64.6万トンにまで計画を引き下げております。

そこで伺いますが、昨年度の計画に対する実績と利用率はどうなっているのか伺います。

○梅津義則港湾課長 港湾の利用実績でございますが、外貿につきましては実績が約11万9,000トン、内貿につきましては実績として約32万1,000トン、合計で44万トン。利用率ですね、すみません。外貿が57.8%、内貿が49.7%、合計で51.6%の利用率になってございます。

○村椿敏章委員 外貿で11万9,000トンと、昨年が8万9,000トンほどだったのですけれども、ここで増えた理由というのは何なのでしょう。

○梅津義則港湾課長 大きくは石炭の輸入量が増えたということでございます。

○村椿敏章委員 わかりました。石炭は外貿ということですね。わかりました。

次に、そういう部分でいえば利用率が今回50%を超えたということですね。

○梅津義則港湾課長 石炭が全体に占める割合というのがかなり大きいものですので、今回は全体としての利用率も向上しております。

○村椿敏章委員 わかりました。

それでは、土地の売却についてはどれくらいあったのか伺います。

○梅津義則港湾課長 土地の売却実績ですが、現時点で今年度売却が1件ございました。953平米売却をいたしまして、5年間の分割払いということになりまして、返納利息を含めまして1,595万円の売却額となっております。

今年度につきましては、5年間の分割ですので300万円の歳入の見込みとなっております。

○村椿敏章委員 それでは、この土地の売却についての今後の取組ですね、そこについてはどうなっているのか、今後売却の努力をどのようにしていくのか伺います。

○梅津義則港湾課長 現時点で令和3年度中に購入するといったようなお話は頂いてはございませんが、漁業者などからも引き合いが来ている物件もございますし、そういった相談も来ております。

また、再生可能エネルギーのそういった関係の企業からも問合せがございますので、新年度に向けて購入してもらえるように努力をしてみたいと考えております。

○村椿敏章委員 今の再生可能エネルギーの関連企業ということですが、過去に太陽光発電なども設置されていると思いますが、今回もそのような企業の方ですか。

○梅津義則港湾課長 今、相談があるのはバイオマス関連の企業でございます。

○村椿敏章委員 バイオマス関連というと、今、能取漁港で行っているバイオマス発電の業者さんとかそんな感じですか。

○梅津義則港湾課長 この場であまり詳しいことは避けませんが、木質バイオマスの関連企業ということでございます。

○村椿敏章委員 わかりました。

輸入するものも扱っているでしょうし、そういうことも考えられますよね。わかりました

次、未売却地はどれぐらいあるのか伺います。

○梅津義則港湾課長 網走港における処分可能な土地の総面積は22万447平米で、そのうち現在まで売却済みの土地面積は10万2,380平米となっております

おります。今後売却可能な土地面積が11万8,067平米となっております。

**○村椿敏章委員** わかりました。

その全ての土地が売れたら赤字は解消されるのでしょうか。また、赤字という繰上充当金ですが、今幾らになるのか伺います。

**○梅津義則港湾課長** 現在の売却単価が1平米当たり1万8,900円となっております。仮に売却可能な11万8,067平米全てこの単価で売れた場合、約22億3,147万円となります。大面積特例の40%減額した単価で全て売れた場合であっても13億3,888万円になります。

令和2年度の決算の赤字見込額、繰上充用金でございますが、10億6,829万円の見込みですので、大面積特例の40%減額した単価で全て売れたとしても赤字の解消が見込める状況というふうに考えてございます。

**○村椿敏章委員** 今のところ、差引きすると全部売れば黒字があるということですね。

それで、先ほど新年度の土地購入については問合せが若干あるということですから、ぜひ前に進めていただきたいと思います。

この会計ですが、当初から計画そのものが大きくて、当時は網走市長、安藤市長が100年後のことも考えれば大丈夫なのだというふうに言うておりましたけれども、しかしそんな簡単なものではなくて、そういう意味で言えば、この状況が続いていけば第2の能取漁港になりかねないものがあります。今この赤字は増えていかないというのも今の金利がほとんどないからだと思うのですけれども、今後港湾の土地利用も模索していただきたいと思いますのですけれども。

私、以前質問で取り上げさせてもらっていた釣り愛好者への釣り場の開放というところなのですが、市内の釣具店に行きますと、なぜ第4埠頭は開けないのだろうかと、お金を取って愛好者に開放してほしいという声があると。そして、サケ釣りのときなどは1か月以上網走にとどまってサケを釣る人もいて、その釣り愛好者の人たちが巻き起こす経済波及効果はかなりあるのではないかと言っています。いろいろマナーとかの問題もあると思うのですが、この開放などは検討できないのでしょうか。

**○梅津義則港湾課長** 釣りのお話でございますが、先ほどもちょっとお伝えしたのですが、石炭

の輸入時期がちょうど秋ぐらい、ビートの精糖工場が稼働する前で、大体6月以降8月、9月、10月というのが4埠頭に一番石炭のたまる時期でございます。

以前は釣りの方にもそちらを開放して楽しんでいただいたといったようなこともありますが、長年やっているうちにいろいろなことが起きて、ごみの問題ですとか、あとちょっとぼやが出たですとか、いろいろな問題が起きて、やはり石炭を扱っている荷役業者さん、そちらのほうからちょっと特にそういった秋サケの時期、この時期石炭の多い時期については何とかちょっと考えてくれないかというようなこともございまして、本来であれば昨年、平成29年までは何日か開放したり、その前はずっと開放していたのですけれども、29年については本当にピンポイントで連休ですとかそういったときだけ開放したといったような経過で、それ以降については令和元年、あと昨年については、全然開放できていないというのは工事の関係ですとか、石炭の量がすごく多くてお客様に入っていただくスペースもないといったようなこともございますので、ちょっと時期もありますので、その辺は今後検討はしてまいりたいと思いますが、現状としては難しいといったようなことで御理解を頂きたいと思います。

**○村椿敏章委員** いろいろな問題があるということもわかりますし、今回の収入が増えているというところでも石炭の置き場としては大事なところなのかなと思います。

もう一つ、第4埠頭ではなくて新港のほうですね、こちらのほうに行くと、漁業関係者以外立入禁止という看板が道路のところに立てられているのですよね。それを見ると、岸壁のほうには行ってはいけないのかなというふうに皆さん思うと思うのですが、もっと開かれた港湾にさせていただけたらと思うのですが、看板を立てているというのはどういう意味があるのでしょうか。

**○梅津義則港湾課長** 新港のほうなのですが、まず基本的には一般の漁業関係者以外の方の車両の乗入れ禁止となっております。それとあと消波ブロックのほうにつきましては、もうこれは完全な立入禁止ということになってございます。これにつきましては、やはり漁業活動のためにあちらのほうは整備したということもございまして、漁業活動の支障もあるということで漁業者

と相談をしてそういった経過になっている部分と、あとやはり消波ブロックに乗ってサケ釣りをされるとかそういった方もいらっしゃるのですが、そこは危険なので立入禁止にさせていただいているといったところでございます。

**○村椿敏章委員** 理由はそのような理由なのだろうなとは思ったのですが、もっと開かれた港湾にしてもらいたいなと思います。ほかの例えば紋別とか港湾に行っても、あのような看板はなかったような気がするのですよね。ですから、この網走港の土地を売っていくというところでは、もっと開かれた港湾にしていってほしいなと思います。またさらに土地売却、今後しっかりと取り組んでいただきたいと思います。網走港湾については以上になります。

次に、能取漁港整備特別会計についてであります。

令和2年度の土地の売却の実績について伺います。

**○渡部貴聴水産漁港課長** 令和2年度の能取漁港特別会計の土地の売却実績についてでございますが、令和2年度につきましては民間企業2社への売却がございまして、売却面積は1,780平米、売却金額は518万2,100円となっております。

**○村椿敏章委員** わかりました。2社あったのですね。

それで、令和2年度の一般会計からの繰入額とこれまでの総額について伺いたいと思います。

**○渡部貴聴水産漁港課長** 令和2年度、まだあくまでも予定でございますが、見込みについてなのですが、一般会計からの繰入金につきましては現段階で1,763万円を予定してございます。

今までの全ての繰入金の合計につきましては、26億7,000万円、約でございますが、となっております。

**○村椿敏章委員** 血税がこれだけ投入されていると、26億7,000万円入っているということがわかりました。

毎年伺っていますが、現在の未売却用地の面積と全部売れたとした場合の金額、それから今後の売却の見通しについても、もしあれば伺います。

**○渡部貴聴水産漁港課長** 現在の土地の状況ということなのですが、処分可能な土地の総面積が49万6,000平米となっております。現段階で43万6,000平米、約87%の売却が完了してい

る状況でございます。未売却地につきましては、約6万平米が売却可能な土地の面積となっております。

これらの未売却地が全て売却された場合についてなのですが、現在の基準価格が3,500円平米当たりとなっております。これに先ほど6万平米とお答えしましたが、正確には現段階で5万9,883平米でございます。これを掛けますと2億959万円となります。

一方、累積の赤字としまして、令和3年度の繰上充用金の見込額につきましては1億8,874万円となっております。この段階では約2,085万円の黒字となることとなります。しかしながら、実際には、当団地につきましても大規模の割引等がございまして、例えばなのですが、令和2年度の売却の平均単価は2,911円となります。この単価を利用しまして試算いたしますと、1億7,432万円の収入となりまして、そうなりますと1,422万円が赤字として残る状況となっております。

今後の土地売却の見込みにつきましては、現在のところ具体的な話は来てございません。

**○村椿敏章委員** わかりました。

いずれにしても、土地が順調に売れていかないとこの会計は駄目だということははっきりしております。引き続き努力をしていただきたいと思います。

この能取漁港の会計についてですが、最初の経過を見ると、昭和44年1月に第4種の能取漁港の指定を受け、45年8月に起工式、当時は非常に漁業が盛んでありましたが、昭和52年に領海の12海里や漁業専管水域200海里が導入されました。北洋海域からの撤退が余儀なくされ、漁業を取り巻く状況が一変したわけです。

その当時、私たち日本共産党は能取漁港をつくっても水産加工業者そのものが移転する資金もなく、移転できないという加工業者の話も聞いて、これ以上の推進をしても駄目なのではないかということ指摘しながら、開発行為そのものの中止を求めています。

昭和49年の単年度収支でいえば、1,196万円の赤字、昭和51年には8,893万円ということからも、ここで背後地の造成などの開発行為をやめていけば全く違う状況があったと思います。しかし、私たち日本共産党以外の政党や議員は推進を

主張して開発を続けてきました。その結果、平成10年度には56億4,967万円まで赤字が増えていったわけです。この赤字を何とかしようという中で、日本共産党の国会議員団と私たちの議員団で国会要請行動ということをして、そこで農水省の方と協議が整って、実際その後、土地の利用制限について何とかならないのかというところで、用途の網掛けが解除になりました。そういったところから進んで、市がこの漁港の用地を借り上げてパークゴルフ場、キャンプ場、レイクサイドパーク・のところができたわけです。この間、土地の活用方法についてみんなで知恵を出し合って協働で進めてきたということだと思います。

この能取漁港の特別会計ですが、網走市の負の遺産ということでこの会計は問題あるとしてきましたが、毎年1,700万円の繰入れをし、26億7,000万円ですか、の血税をつぎ込んだ会計であります。ここには市民の皆さんに御理解を示していただいて、また理事者それから職員の努力があって今回繰上充当金という赤字が1億9,000万円まで縮減されたというわけで、さらなる努力をしてこの会計の解消も検討していただけたらと思います。そのことを述べまして、この能取漁港会計については終わります。

次に、水道企業会計についてです。

水道事業の収入についてであります。昨年もこの予算委員会で確認させてもらったのですが、新型コロナウイルスの影響についてです。

昨年の決算では給水収益が落ちておりました。さらにこのコロナ感染が続いて影響が続いていると思いますが、今回決算見込みでどれほど落ちる予定なのか伺います。

**○野呂俊広営業経営課長** 新型コロナウイルス感染症拡大によります水道料金収入等への影響についてでございますが、国の緊急事態宣言などによって観光客の減少、外出、集会等の自粛によって受けた令和2年度1年間の水道料金への影響につきましては、ホテルなどの宿泊施設、それから観光施設などで軒並み使用水量が減少し、これらを含めた業務用全体で対前年度比約9%の減少で、金額では約3,000万円減少する見込みとなっております。

一方、御家庭での手洗いやうがいの励行、活動自粛等による巣籠もり傾向などが要因だと推測しておりますが、家事使用水量が増加して対前年度比

約4%の増加、金額で約2,000万円の増加となる見込みでございます。

また、工業用では対前年度比約4%の増加、金額で約400万円の増加となる見込みでございます。総体では対前年度比約0.7%、金額では約600万円の減少にとどまり、ほぼ令和2年度当初予算額を確保できるという見込みになっている状況でございます。

**○村椿敏章委員** わかりました。

そのホテル、宿泊業の部分で落ち込みが大きかったということなのですが、この支払いが滞ることとか、料金を待ってくれというような、そういう相談などはあったのでしょうか。

**○野呂俊広営業経営課長** コロナ感染症が拡大し始めた昨年の4月、5月の段階で厚生労働省、それから総務省より、コロナによって影響を受けた方々に対する公共料金等への柔軟な措置の実施等周知ということで通達が発せられたところでございます。

当市においても水道料金等の納入については、相談があった場合については、個々の事情に応じた柔軟な対応をしていたということで、分納、分割の納入ですとか、あるいは給水停止の措置の回避などは行っております。昨年の5月の段階で納入相談は6件ございまして、現在はそのうち5件は水道料金は完納しているという状況でございます。

**○村椿敏章委員** わかりました。意外と少なく済んだという印象であります。

実際、相談はそのような形でしょうけれども、大学生の方も結構収入が減って大変だったと思うのですが、例えば若い人たちの滞納が多かったとか、そういうケースはないですか。大学生の方々の住んでいるアパートとかで滞納の件数とかは多くなかったですか。

**○野呂俊広営業経営課長** 東京農大の関係で申しますと、学生さんは非常に多かったのですが、ウェブ授業という対応もありまして、一旦実家に帰省する学生さんが非常に多かったということで、それで一時期連絡が取れなかった学生さん何人かおられたのですが、使用届、開始届を頂くときに実家の住所等をお聞きしておりますので、親御さんに電話したりなどしてそういうところは対応していたということで、特に農大生に滞納が多かったという状況ではございません。

○村椿敏章委員 わかりました。

引き続き、丁寧な対応をお願いします。

次、公営企業の予算書の8ページの資本的収入及び支出のところですが、補助金が1億1,200万円、そして出資金が1億1,200万円というふうになっていますが、新たに出資金というものがついたと思うのですけれども、このことについて説明をお願いします。

○野呂俊広営業経営課長 当市におきましては、平成31年度から補助金の更新事業に対する生活基盤施設等耐震化等交付金の適用を受けまして、更新事業を実施しているところでございます。

令和2年度に補正予算で説明させていただきましたが、この出資金につきましては水道管路耐震化事業における地方負担額、事業費で補助金を受けた後の残りの額ですね、いわゆる補助裏といいますが、その補助裏の2分の1に対して一定の要件を満たした場合に、一般会計側が出資債を借り入れてその同額を水道事業に出資していただくというものでございまして、一般会計において出資債の元利償還金の2分の1が普通交付税措置されるというものでございます。

○村椿敏章委員 その意図というのですかね、補助というところで3分の1が手当されたというところなのですから、やはり老朽化した管をどう更新していくかというところだと思うのですけれども、それをどんどん進めていこうと、国は。この事業というのは、この後も網走市の導水管の工事はまだこれから続くと思いますが、この制度というのは長年この後も続いていくようなものなのでしょうか。

○野呂俊広営業経営課長 水道管路耐震化事業に対する期間ということでございますが、網走市におきましては、令和2年度から令和5年度までの4年間の活用というふうに見込んでいます。といいますのも、対象となる経費が過去に行われた通常事業費に上積みした分という要件がございますので、たまたま22年と25年、たまたまというか、すみません。22年と25年に断水事故、網走で事故ありまして、そのときに前倒しして補正を組んで工事をしたということがあって、その後更新事業をしていなかったということもありまして、過去の通常事業費というのがゼロだったものですから、それで平成31年に補助金、先ほど説明した補助金の決定を受けて、ゼロのところからスタート

するということで、全部が対象事業費となるということから、それが令和5年度までということで、令和6年度以降になりますと、過去令和2年度から5年度までの間の事業費が今度通常事業費というふうになりますので、そうなりますと通常事業費から上積みする分というのはなくなるというふうに考えていますから、この措置は令和5年度までというふうに考えているところでございます。

○村椿敏章委員 過去の事業費が少なく、そしてその後大きな事業をしたと、そういった上積み分について助成しますよということですね。わかりました。

私はこの事業がずっと続いてくれると明るい兆しになるかなと思いましたが、でも令和5年度までは続くというところで、今後の水道事業の見通しですね、料金の値上げなども予定されていたと思いますが、今後の見通しを伺います。

○野呂俊広営業経営課長 今後の水道事業の経営の見込みでございしますが、今説明させていただきました補助金の適用、それから出資債の適用ということで、本来借り入れる予定であった企業債をその分企業債の発行額が抑制できたというふうに考えていますから、大変よい影響になったというふうに考えているところでございます。

料金改定の件につきましては、従前から当面現状のままというふうに説明させていただいておりますが、予期せぬ財政出金がない限りは現状においても当面現状のままという状況でございます。

○村椿敏章委員 わかりました。

この導水管工事の内容についても伺いたいのですが、来年度の事業の概要、工事時期などについて伺います。

○柏木弦上水道課長 導水管の更新工事の状況なのですが、令和3年度の事業内容につきましては、先ほど営業経営課長のほうから申し上げましたとおり、平成31年度より生活基盤施設耐震化等交付金によって補助を受けて進めております。

令和3年度の事業内容につきましては、令和2年度に引き続きまして稲富地区、東藻琴の西倉地区の総延長約4,000メートルの未更新区間のうち第1、第3水源系の口径500ミリメートル、第2水源系の口径400ミリメートルの延長それぞれ



1,200メートルの敷設替工事を予定しております。

また、事業費としましては、工事費2億3,760万円のほか、令和4年度の工事に使用する水道用鋼管を調達するための材料費8,030万円及び令和5年度以降の工事区間の調査設計費1,375万円を計上しております。

**○村椿敏章委員** 昨年質問で若干聞いたのですが、それまでは導水管の管が春に発注してとかそういう形だったと思うのですが、前年度に管を買っているということになっていますが、工事時期はどの時期に早まっているのか伺います。

**○柏木弦上水道課長** 工事の時期につきまして、施工する箇所がほとんど農業地域といえますが、周りに畑が広がる道路の中に埋設していくことになるのですけれども、関係される、通行される方の多くが農業者ということで、基本的には農作業に影響のない時期に施工するという事で考えております。

また、資材の調達の期間といえますが、製作の期間が数か月かかるものですから、同年で資材を製作すると同時に工事もある場合においては、どうしても年度の後半に工事が集中してしまうということもありました。ただ、今翌年分の材料を前年に調達することにしていますので、地域とのお話といえますが、調整にもなりますが、少しでも早い時期に工事ができるようには地域の方々と話し合いながら今後も進めていきたいと考えております。

**○村椿敏章委員** 工事の時期も農業者との調整が大変だと思いますが、理解を得ながらやらないとできない事業だと思いますので、ぜひしっかりと協議していただきたいと思います。

私からの質問は以上になります。

**○山田庫司郎委員長** ここで、暫時休憩します。  
午前10時56分 休憩

午前11時06分 再開

**○山田庫司郎委員長** 休憩前に引き続き、再開します。

質疑を続行します。

石垣委員。

**○石垣直樹委員** それでは、令和3年度の特別会計、下水道の部分をお伺いしていきたいと思いま

す。

各施設が老朽化していく中で、それぞれ修繕が今後かかっていくかと思いますが、令和3年度に浄化センター管理費の中に修繕費が4,090万円見込まれておりますが、内容についてお示してください。

**○中村昭彦下水道課長** すみません、修繕費ではなくて工事費というか整備費でよろしかったでしょうか。

**○石垣直樹委員** こちらの令和3年度網走市公営企業会計予算書の74ページでは、修繕費になっておりますが。

**○山田庫司郎委員長** 暫時休憩します。  
午前11時08分 休憩

午前11時09分 再開

**○山田庫司郎委員長** 再開します。

石垣委員。

**○石垣直樹委員** すみません、質問を変更させていただきます。

浄化センター等施設整備の2億1,000万円について中身をお示してください。

**○中村昭彦下水道課長** 浄化センター等の施設整備の主な内容についてですが、浄化センターの主ポンプ設備、機械電気設備更新工事と水処理等の屋根防水の更新工事となっております。

主ポンプ設備とは、浄化センターへ流入してきた汚水を地下1階から地上にある最初に汚水を浄化する水処理棟へ送るポンプ設備をいいます。

主ポンプ設備は、昭和52年7月供用開始より稼働しておりますが、老朽化が進行しており、オイルの濁り、異音が出ているため更新するものでございます。

また、電気設備については流入してくる汚水の量によりポンプの吐出量を調整する装置の故障による警報が多くなってきたこと、電源等の入り切りする接点の劣化が進んでいることから更新を行うものでございます。事業費については、約1億6,500万円です。

水処理棟の屋根防水の更新工事につきましては、平成10年に屋根防水工事を行い22年が経過しており、アスファルト樹脂が劣化しており一部雨漏りが見られるため屋根防水を更新するものでございます。事業費については2,500万円でございます。

○石垣直樹委員 経年劣化による修繕、更新だと思いますが、今後もこれ以外にもかかっていく部分があるのでしょうか。

○中村昭彦下水道課長 今後の計画の内容かと思いますが、ストックマネジメント計画に沿って年間4億円程度の施設の更新を考えております。

○石垣直樹委員 網走市にとって大変重要な施設ですので、計画的に設備を更新していただければと思います。

私からの質問は以上でございます。

○山田庫司郎委員長 次、小田部委員。

○小田部照委員 私のほうからは、水道施設の整備事業について順次質問させていただきます。

先ほど他の委員からも質問がありましたので一部割愛させていただきます。

まず導水管布設替の事業であります。

こちらは稲富地区、東藻琴地区、西地区と3億3,600万円をかけ1.2キロの事業だという内容は先ほどもお聞きいたしました。この事業は多額の費用がかかることでもあり、水道料金にも影響がないように計画的に順次進められているものだと認識しております。

この工事の布設替は残りあと何地区あり、どれぐらいの総距離があり、合わせてどのぐらいの予算がかかり、年数がかかるのか、わかる範囲でお伺いしたいと思います。

○柏木弦上水道課長 導水管の今後の計画でございますが、導水管の未更新区間は現在進めております稲富、西倉から網走市内浄水場までの20キロほどと、あと水源地側のほうに一部ございます。その区間を大きく4つに分けまして、1区間おおむね4年程度で更新を行う計画です。

第1区間として現在進めている稲富、西倉地区は、平成31年度からの4年間で延長約4キロメートル、事業費約11億円を見込んでおります。

令和5年度より8年ほどかけ、第2区間の中園、豊郷地区、第3区間の豊郷、潮見地区の14.5キロを事業費約38億円で布設替を行い、その後市街地と水源地側の計3.8キロメートルを4年間かけ、事業費約11億円を見込んでおります。

全体計画でいいますと、全区間延長約20キロメートル、第1、第3水源系と第2水源系の2系統の合計管延長としまして41キロメートルほどの更新を約16年間かけて行いまして、事業費については労務費や材料費の変動が予想されますのであ

くまでも現時点での概算ですが、約60億円程度を見込んでおります。

○小田部照委員 まだまだ長い年月、多額の費用がかかるということで理解いたしました。

次に、配水管の布設事業について伺います。

こちらは宅地化した地区に配水管を布設とありますが、これはどの地区になるのか、どれぐらいの世帯の方の地域なのか伺います。

○柏木弦上水道課長 配水管の布設についてですが、配水管がまだ現在布設されていない地区において、開発行為などにより新たに整備される宅地等への配水管の布設やバイパス管などの布設など、水道の計画上必要な箇所への整備を行います。

予定箇所につきましては、市道潮見西通線、第2天都山線、駒場南3丁目2号線及び道道大観山公園線の4地区において、延長800メートルの整備を行います。事業費については4,250万円でございます。

○小田部照委員 理解いたしました。

次に、配水管布設替1億5,510万円とありますが、それぞれ道路工事、漏水防止策、6地区と5地区とありますが、それぞれの地区の予算について、内訳について伺います。

○柏木弦上水道課長 配水管の布設替えについてでございます。

配水管の布設替え、まず道路工事の関連につきましては、老朽化した配水管の布設替えを道路改良と合わせて行うことで舗装復旧費等が軽減できます。そして効率的に更新を行うことができるため、可能な限り同時施工を行っているものです。

路線につきましては、市道天都山南線、駒場南1丁目1号線、西2丁目通線、駒場南8丁目2号線、駒場北2丁目1号線及び道道嘉多山卯原内停車場線の6地区において、延長755メートルの整備を行います。

事業費については8,305万円です。

もう一つ、配水管布設替につきましては漏水防止対策というものもでございます。過去に漏水発生頻度が高い地区の管路の布設替えを行うものでございます。

5地区において、延長870メートルの整備を行います。事業費については5,005万円でございます。

○小田部照委員 内容はわかりました。

故障だとか漏水事故などの発生に対して、早期発見、早期対応ができるように道路沿いの布設替えなど、センサーの設置などにより、よりよい環境の整備が進んでいるものだと思います。

それで、こちらの漏水防止対策5地区、次年度はやるということですが、漏水対策の残りの地区、想定される地区というのはどういった地区で、完了まではどの程度を見込んでいるのか、わかる範囲で伺いたいと思います。

**○柏木弦上水道課長** 漏水の防止対策ということで今年度5地区を予定しているのですが、漏水が起きる都度修繕は行っていて、過去に漏水が起きて修繕した地区というのは当課のほうで履歴として残しております。それで非常に漏水の、周りの土壌ですとかそういった環境によって、あと布設年度が古いものですとか、そういったことによって漏水の多い少ないがあるのですが、その中で漏水が多い箇所を順次更新していついてるところでございます。

今年度については、市道の潮見3条通線、潮見7条通線、旭ヶ丘団地2号線、潮見6丁目1号線と道道中園網走停車場線の5地区を予定しております。

**○小田部照委員** 漏水ですのでいろいろな箇所が発生することであると思います。

次年度の予定はわかりましたが、それ以外で早急に対応しなくてはならない箇所というのは今時点ではないのでしょうか。

**○柏木弦上水道課長** 漏水の防止対策については、これまでは路上に水があふれ出して初めて気づくということが多くて、発見した方から通報を受けて修繕を行うという流れだったのですが、今後漏水の調査する専門の業者などに委託しまして、路上にまだ出てきていない潜在的な漏水というものがあると想定されます。夜間の皆さんが使われていない時間帯の使用水量が多いようなエリアについて、今後積極的に漏水の調査を、仕切弁ごとにそういうセンサーとかをその都度入れて調査を行うものなのですが、今後そのエリアを決めてまだ目に見えていない漏水箇所の把握をして、箇所の選定をして修繕あと更新について進めていきたいと考えております。

**○小田部照委員** 理解いたしました。

大きな漏水の事故は数年にわたり、長年にわたり起きていないのですが、小さな漏水というのは

市内でもすごくたくさんあると思うのですが、年間、参考までにどれくらい漏水は発生していますか。

**○柏木弦上水道課長** まだ今年度の分はちょっとまとまっていないのですが、平成31年度の数字としまして、漏水が117件起きています。それでその内訳が、水道部で所管しています導水管、送水管、配水管の件数としましては、そのうちの24件ございます。最近多いのが、配水管から各家庭に分岐している給水管と呼んでいるのですが、その給水管にまつわる漏水が非常に増えていて、配水管については随時更新を行っているのですが、給水管というものは住宅の建て替えとかをしない限りはなかなか更新しないものですから、そういった給水管の漏水が近年増えているというのが特徴でございます。

**○小田部照委員** 最近、近年では給水管の漏水が多発しているということで理解いたしましたが、平成31年度で117件の漏水があったということですが、皆さんの御努力で年々減ってはきているという認識でよろしかったでしょうか。

**○柏木弦上水道課長** そうですね。委員おっしゃられるとおり、配水管の漏水というのは近年はちょっと、5年ほど前は30数件、40件あったものが20数件に落ちているので、若干減ってはいるのですが、給水管についてはだんだん老朽化が進行して増えていついていくという状況でございます。

**○小田部照委員** また新たな課題もあるのだなと認識いたします。

少しでも安く安全な水道水を安心して供給しているということは、地域、網走市民にとって大変ありがたいことであります。水道料金の改定については、先ほど答弁あったように現時点では大きなトラブルがない限り改定の考えはないということで安心いたしました。

水は市民生活に不可欠なものであります。水道事業全般に対し、私は高く評価しているところがありますが、今後とも安心・安全な水道水の提供に一層の工夫と努力に期待いたしまして、私の質問を終わります。

**○山田庫司郎委員長** 次、川原田委員。

**○川原田英世委員** 私のほうからまず市有財産整備特別会計について伺っていききたいと思います。

代表質問の中で、自主財源についてふるさと納

税を主に伺ったのですが、その他の自主財源として伺ったところです。私としては、自主財源として、例えば最近話題になっている観光宿泊税とか、環境に関する税とか、先ほど村椿委員の質問でありましたけれども入漁税みたいな、観光入漁税みたいなものを使用して、そういった釣り人の課題と漁業者との間の課題に対応するために使っていくとか、そういった自主財源を想定して質問したつもりだったのですけれども、そうではなく市有財産整備特別のほうで自主財源をある程度確保しているというような答弁でしたので、その点もあるのだなと思いながら、そういえばいろいろ課題あるなというように思いがして、その点で伺っていきたいと思います。

自主財源とはいってもあくまでも市の財産を切り売りしているということになりますので、できるだけ効率よく活用できるほうが市としては望ましいと思いますし、市民として一企業としてはより効率的にそれを取得したいというふうに思いますから、その間の調整というのもひとつ課題はあるのだらうと思いますが、全体的なこれまでこの数年の流れとして、この市有財産の市の所有している土地について、土地物件について、引き合いというのはどの程度の状況になっているのか、まずここ数年の傾向をお伺いしたいと思います。

**○古田孝仁財政課長** 市有財産の土地ですか、建物もついている土地もあります。そちらに対する購入希望とか貸付希望という状況の問いかと思いますが、市のほうといたしましては、第4次網走市行政改革推進計画で多様な歳入の確保という観点から市有財産の貸付け、売却に積極的に取り組んでいるところでございます。

さきの代表質問でもお答えさせていただきましたが、過去5年の実績といたしましては、建物つきの売却も含めて2億4,000万円程度の売上げがあったというところでございます。また、財産貸付けにつきましても、今年度の決算見込みでございますが、おおむね2,000万円程度の収入が見込まれているというところでございまして、個別적으로는今年度の売却といたしましては3件売却がありました。そちらにつきましては、個人の事業主の方、あと個人の方、あとは官公庁になります。やはり公売を昨年行ったのですけれども、そういうものを見て、そのときは応募しなかったけれども、その土地についてまだ購入でき

ますかというようなお問合せがあったりとか、そういうものはやはりホームページや公売をかけることによって市民の中で検討というのですかね、そういうものを一つの物件として候補に上がって、その公売期間ではなくても後日というのですか、問合せが来るようになっていきますので、やはり積極的に公売とか、そういうものに取り組んでいけばますます活用が図られるのかなと考えているところでございます。

**○川原田英世委員** わかりました。

そこで公売に係る部分で、例えばここ興味あるなとかという問合せが来たと、求めているようなものと違うとなったときに、公売でかかって見えている部分と多分見えていない部分の所有している土地があると思うのですけれども、見えているものしかわからないのでいろいろと御提案も頂きたいと思って多分来ると思うのですけれども、そういうときにはいろいろなその他見えていない部分の御紹介とかもできるような体制になっているのですか。

**○古田孝仁財政課長** 市有財産の売却可能とされているところは小さな残地も含めまして多数ありますので、全てを公表するというのはなかなか難しい状況ではございますが、一昨年になります。物件数としては13売れたのですけれども、その際は隣の方が隣は市有地だと知って、購入できるのかなというような問合せがあったりとか、そういうような情報の中でうちのほうがそれを受けまして売却が可能と判断すれば、その都度公売をかけていくというようなことでは取り組んでおりますので、御相談というのですか、積極的に全部をお示しすることはできないのですけれども、ある程度地域の方とか知っている情報の中で周知ということがわかって、もし御活用したいという希望があればお問合せいただければその都度売却可能か可能ではないかというのは判断して、その後は公売という形で対応してまいりたいというスタンスで考えております。

**○川原田英世委員** わかりました。

それで、最近よく耳にするのが、僕世代の若い方ですとかそろそろ軒家持ちたいよなと思って、市内の中心部とか市街地になかなか土地がなく、結局はちょっと離れたところに建てるというふうになって、それと最近議論になっている立地適正化計画とか、いろいろなほかの計画と合

わせると市がまちがどんどん拡大していくのはいいのかなという側面も持ったりとかして、そう思うと、ほかのそういった市でもそういう場所があるのであれば、そういう若い人たちのきちんと結びつきができればいいのではないかなというふうに思っています。

ただ、普通に僕らなどから考えると市でそういう土地が仮にあるのだということすら情報がないので、何かできるだけ発信をしていってほしいなとつくづく思ったりするのですけれども、そういった情報の発信について、今の状況からもう少し工夫できないかなと思うのですけれども、どのような考えか伺います。

**○古田孝仁財政課長** 市で持っている土地の件数としては残地というか少ない面積と不整形な土地が多いものですから、それを除いてある程度整形地もしくは住宅用地として活用可能な部分につきましては、順次公売のほうにかけられる形でホームページを通じたりとかして、皆さんにお声がけするようには努力してまいりたいと考えているところでございます。

そして、前回公売したときの物件は、おかげさまで全て売却ができましたので、次年度以降はまた新たな物件を出しまして、それは公売等に出していきたいと。

また、公売に当たっては土地の評価というのですかね、それもやっぱり不動産関係ですとか、そういうものを入れながら設定していく観点もございますので、その辺の費用とのバランスを見ながら一定数をまとめて出していくというようなことで考えているところでございます。

**○川原田英世委員** わかりました。

今、残地という話もありましたけれども、技術がいろいろ進んで、本当に小さい土地でも再生可能エネルギーがつけれるとかそういうのがどんどん進んできていて、そういう企業の方がちょっと注目をしていたりしています。本当に狭いエリアでも、ぼんと仮置きするみたいな感じでエネルギーをつくれるという時代になってきたものですから、そういうもし引き合いがあれば有効活用を企業と連携して進めていただきたいと、これは要望ですので答弁は求めません。

それともう一点が、コロナという状況で目先が見えないということもあって、企業も土地を買うというよりは借りて、できるだけちょっと状況を

見極めながら使っていきたいというところが結構出てきていまして、今の建物を合わせた土地も含めて売却という視野も入れながらも、まずはお試しも含めてといったら変な話ですけども、借りてでも使ってもらおうということを、今は積極的に進める必要があるのではないかなと思うのですけれども、その考えについて伺います。

**○古田孝仁財政課長** 貸し地に関する御質問かと思いますが、現在のところも法人様を契約者としたしまして貸付けのほうはさせていただいているところがございます。

その多くが駐車場というのですか、上物がない状態での御利用に対してお貸ししているというようなところがございます。ただ、仮に建物が建ったというようなことになると、その後の状況もございますので、それは個別に判断していくことになろうかと思っておりますが、基本的には駐車場ですとか、そういう簡易的なものとして活用される場合は現状におきましても積極的にお貸ししている状況でございます。

**○川原田英世委員** わかりました。

先日の小田部委員の質問にもありましたように、できるだけ建物を売却したいというような答弁もありましたけれども、そういう中でも相談に応じていただいて長期的な視野で借入れして、今は取りあえず借入れて、この後には計画がうまくいけば買いたいのだというような意向のある企業であれば、そのほうがいいのかもかもしれませんし、そこはよく相談をしながら今後のことを考えていただきたいなというふうに要望させていただきたいと思います。

次に移ります。

国民健康保険特別会計の項目の中で、163ページに特定健康診査事業というのがありまして、この中に受診率向上支援等共同事業負担金という項目があります。令和2年度からの新規事業ということで、事業内容としては北海道国保連が事業を担って、国保連と実施企業が委託をするという形なのですね。参加を希望する市町村が国保連に負担金を払ってということで、網走市はこの予算でいくと493万4,000円を支払う予定であるということで、特定健診の受診率向上に向けて助言や作業の提供を受けるという内容になっているということなのですが、去年実施して今年も予算に載っているということは、それなりの成果があったのだ

ろうなというふうに想定しているのですけれども、そこをどのように受けているのか、まず伺いたと思います。

**○清杉利明戸籍保険課長** 令和2年度の受診率向上支援等共同事業負担金におけます事業内容でございますが、この事業につきましては国保連合会から委託された民間業者から助言や作業の提供を受けるものでございますが、具体的には業者がAIを活用して作成したグループごとに適した内容の勧奨はがきを年2回送付する作業の提供と、匿名化した過去3年分の特定健診結果とレセプト情報を基に年代別の受診率や特定健診のリポート率などの分析をしていただき、受診率向上に向けての助言を受けるという内容でございます。

それに当たっての成果につきましては、今年度につきましては新型コロナの影響もあり受診率の向上には至っていないところですが、その検証は難しい状況にあることから令和3年度につきましても引き続き共同事業を利用することとしており、今までの分析結果から勧奨ターゲットとして効果が高いのは、通院中の特定健診が未受診である方へ勧奨はがきを送付すると効果が高いという分析結果があるとの助言を頂いておりますので、今後の取組に生かしてまいりたいというふうに考えております。

**○川原田英世委員** わかりましたけれども、国保連が事業を担って参画していて、ただ参画している市町村への何かちょっと成果というか、そういったところが見えないようでは困りますよね。参加して一緒に取り組んでいるのであれば、網走市にもこういったこの事業では成果がありましたよというのがきちんと伝わってきて、そして今後やるかやらないかという判断をするというふうに、これは決算でも出てくるのだと思うのですけれども、というふうにならないといけないとは思いますが、道国保連かそういった、コロナでなかなかというのがありますが、ある程度の状況というのは、成果というのは報告はこの後にされるということで理解していいのでしょうか。

**○清杉利明戸籍保険課長** その業者から2年度の結果としましてどういう状況だったのかというのは、分析をしていただいて報告が来るというふうに考えております。

**○川原田英世委員** わかりました。2年度でまとめて来るということなのですね。では2年度の事

業で2年度目に入るということで理解していいのでしょうか。

**○清杉利明戸籍保険課長** まだ2年度から実施している事業でございますので、現段階ではその成果というのがコロナの影響もあり、受診率の向上にはなかなかつながっていない状況もあることから、また来年度についても引き続きこの事業を継続していき、また助言を頂いた部分については今後の取組で追加しながら継続してまいりたいというふうに考えております。

**○川原田英世委員** わかりました。令和2年度からの実証ということで2年間の事業というわけではないということですね。まだ結果は出ていないからこれからなのだけれども、取りあえず来年もやっていこうということでした。

それで、その事業に伴ってということなのか、特定健診の実施事業である特定健康診査等事業の予算も若干増額しています。受診率が増加するという想定でおられるのか確認をしたいと思します。

**○清杉利明戸籍保険課長** この受診率向上事業で予算が55万円ほど増加しているのですが、先ほどもお話ししましたとおり、助言を受けまして効果が高い、通院していますが特定健診が未受診の方を抽出しまして、その方への勧奨通知を送付する事業を追加することで55万円ほど予算が増加している状況でございます。

すみません。特定健診等の保健事業でございますが、総体としては26万円ほど、全体としてですね、特定健診等の保健事業全体としては26万円ほど増えておりますが、そちらについてはいろいろな要因はあるのですが、まず一つはいろいろな健康づくりに、一般会計で実施しています健康づくりにも負担金を支出しているのですが、3年度からはあばしり健康マイレージ事業に対しましても22万円ほど負担しますし、そのほかそれぞれ健診を増やしたいということもありますので、健診への助成費を若干ではございますが増やしているような状況でございます。

**○川原田英世委員** わかりました。

コロナで今年度の受診というのはなかなか少なかったということですが、当然、だから目標と比べたら相当低かったのではないのかなと受け止めているのですが、まだ今年度終わっていませんので最終的な結果はこれからだということだ

と思うのですけれども、当初の目的と比べるとどのくらい、コロナの影響かどうかというのはまた難しいのですが、どのくらい低かったのかということと、来年度の予算の設定の段階でこの目標はどうなのでしょう、達成できるというふうに見込んでいるのか。見込んでいるから目標を立てているのだと思うのですけれども、その点について伺いたいと思います。

**○清杉利明戸籍保険課長** 令和3年度の受診率の目標でございますが、35%と設定をしております。ただし、その目標の達成につきましては、まだ新型コロナの影響も続いているような状況もございますので、大変厳しいものというふうには認識をしております。

しかしながら、少しでも目標に近づくよう、令和2年度から実施しております先ほどの同事業ですとか、また追加する勧奨通知などを活用しながら、また医療機関にも情報提供をし、医師からも受診勧奨を頂くなど受診率の向上にはつなげていきたいというふうに思っております。

**○川原田英世委員** なかなか厳しい状況にあるのだなということで、となると、医療機関もかなり財政的にも経済的にも厳しいのかなというのが、ここからちょっとうかがえるなというところで。

それで、先ほど同事業の内容等は伺ってきましたけれども、この事業は今年度からの事業ということで、昨年予算がついてという、2回目になるのですけれども、去年の3月出た市政執行方針にはこの記載はなかったのですね。「AIを活用した効果的な受診を行うことにより、特定健診の受診率の向上を図る」という文章は去年はなかったのですけれども、今年2回目になるのだけれども、今年の中には市政執行方針に書いていまして、ここに去年からの新規事業なのに去年はなくて、今年のここに出てくるというのは何か意図をする部分があるのだらうなと思うのですけれども、その点も含めて来年度の抱負をお伺いしたいと思います。

**○清杉利明戸籍保険課長** 市政執行方針のほうにこの事業を掲載した意図や抱負についてでございますが、国保事業におきまして、特定健診の受診率向上につきましては、今後の保険料負担の低減を図る上で大きな課題であるというふうに考えておりますことから、市政執行方針にも掲載したと

ころであり、勧奨効果が高いとされている方への通知や医療機関との連携等により、受診率向上に意欲を持って取り組むということにしております。

**○川原田英世委員** 課題認識は大変共有するところですので、しっかりと取組をお願いをいたしたいと思います。

次に、水道事業会計について何点か伺いたいと思います。

先ほどの委員からの質問で状況、今後どのように進めていくのかというところでは理解をしました。

それで、僕のほうからお伺いしたいのは、まず8ページ、9ページに資本的収入及び支出というのがあります。収入に対しまして支出のほうが大幅に超過しているということで、このページでいうと、3ページの下段のほうに、不足金額4億3,637万円、これを様々な調整額等から補填するというふうに記載があるということで、補填がされるということでこの予算が成り立っているというふうに理解をするところです。

今年度はそのように進んでいくということで理解をするところなのですが、こういったふうに補填をしながらずっとやっていけるものなのでしょうか。ちょっと僕は理解、あまりわからないので、ちょっとその認識をお伺いしたいのです。

**○野呂俊広営業経営課長** 水道事業は地方公営事業の適用を受けて進めているのですけれども、複式簿記で経理していくということなののですけれども、一般の企業の複式簿記とはまたちょっと異なっていまして、例えば一般会計ですと官庁方式と呼ぶのですけれども、例えば建物を建てて、建物を建てた後の収入があったとして、建物を建てた支出の経費とその後の収入というのは一つになっているのですけれども、地方公営企業法の摘要を受けた水道事業の場合の複式簿記においては、インフラにかけた、資本にかけた収支と営業活動にかけた収支というのを別々にしているのですよね。当然、資本的収支ということであれば、導水管を整備してその財源といえば企業債だったり、先ほどの出資金だったり、補助金だったりするのですけれども、事業費に比べて大抵の事業者は少ない状況になるのでどうしてもマイナス、インフラ整備に関しては収支のバランスは支出のほ

うが多いということになるのですね。一方、それに元金償還も加わります。

営業活動の収支というのは、まさに料金収入の収支とあと事務費ということになるのですけれども、その事務費のプラス分をもって、その資本費を埋めるという意味の補填ということなのですね。ですから、営業利益を例えば企業活動でいえば、営業活動で得た利益を株主に配当したり、そういうことになろうかと思いますが、あくまでも地方公営企業の事業の利益分はそういった資本費に充てて補填していくという状況で、必ず大抵の事業体は資金的支出のほうが多いということで赤字に見えてしまうということなのですね。そういう補填方法をしながら、踏まえて、先ほど答弁したように、今後大きな財政出金がない限りにおいては、料金改定は当面現状のままというふうに回答したところでございます。

**○川原田英世委員** よくわかりました。なので、見ると、見やすくなったようで一部ちょっと見づらくなってくる部分もあってというような状況かなと思っています。

もう1点伺いたいのですが、支出金、支出債とってどちらの言い方もあるのだと思いますが、それと補助金の関係はわかりました。

それと、企業債発行していくということですが、この4ページの企業債という第5条を見ると、当然こんなことはないのしょうけれども、年利10%以内という記載になっています。実質的にはどの程度の見込みでいるのかお伺いします。

**○野呂俊広営業経営課長** 近年の借入利率なのですが、平成25年当時で1.7とか、平成26年度は1.2、平成27年度は0.5ということで、その後低金利の状況は変わらないので、低い状態で借入れが続いているという状況でございます。

**○川原田英世委員** 当然その程度だと思ったのですが、これを見ると何かちょっとどきっとしたのですね。まさかこんなことはないよなと思いましたが、一応そういうルールで記載があるのだと思いますが、実質の部分はよくわかりました。

それともう1個ちょっと気になってしまうのが、8ページと9ページの資金的収入、収支で、企業債としての発行が2億9,300万円なのに対して支出の部では企業債のこの償還金が3億8,594万円と大きく上回っているという部分で、ちょっとやっぱりこの数字だけ見るとすごく不安を感じ

てしまうのですよね、将来に。その部分、ちょっとどういったふうに認識しているのか御説明いただきたいのですが。

**○野呂俊広営業経営課長** 起債残高の関係でいいますと、網走市は第6次にわたる拡張工事を終えて、それで起債残高の最大のピークが約80億円あった時代があるのですね。それで、年々減ってきました、令和2年上期ではもう50億円を切るような状況になっています。

それで、去年導水管の工事を再開するときに低くなったところを見通してまた再開しようということで計画を進めていて、また上がっていくようなイメージだったのですが、先ほど説明させていただいた出資債、出資金の関係、それから念願かなっての導水管の補助金が当たるということで、カーブの上昇が緩和できるというふうに考えていまして、現在のところ、先ほど何回も繰り返しになりますが、当面営業活動は安定しているというか、健全な経営ができるのではないかといいように感じているところでございます。

**○川原田英世委員** 現在のところの見通しをお伺いして理解をしました。

でも、これ数字だけ見ると、借入れする金額よりも借金返す金額のほうが大きいと一般的には思ってしまうので、大丈夫なのかなと普通は思ってしまうところですので、ここは注視して今後も進めていただきたいというふうに思います。

それと最後にもう1点だけ、ちょっとこれもわからなかったのとお伺いしたいのですが、7ページのほうはこれは収益的ということで実際に事業を運営する側の部分だと思うのですが、ここにも7ページのほうの支出のほうの2項の1に支払利息及び企業債取扱諸費というのがあって、企業債及び一時借入金の利息ということで8,000万円ほど計上されているのですが、これはどういったものになるのでしょうか。

**○野呂俊広営業経営課長** 先ほど説明した地方公営企業の資金的収入支出と収益的収入支出の関係で、企業債の元利償還金についてはインフラ整備のほうの経費として資金的支出のほうに回ると、その利息のほうは営業活動というふうなことで収益的収入及び支出のほうに計上されているということでございます。

**○川原田英世委員** わかりました。

分けてあるとなかなかまたわかりやすくなった



ようでわかりづらいという、僕の意見ですけれども、いずれにしても状況はよくわかりました。

厳しい状況の中でも水道料金は上げないといった答弁も頂いたところですので、今後も努力をしていただいて安心・安全な水、これは人間の基本ですので、ぜひお願いをしたいというふうに思います。

私の質問は以上です。

**○山田庫司郎委員長** ここで、昼食のため休憩します。再開は、午後1時とします。

午前11時58分 休憩

午後1時00分 再開

**○山田庫司郎委員長** 休憩前に引き続き、再開します。

質疑を続行します。

永本委員。

**○永本浩子委員** それでは質問させていただきします。

予算説明書の163ページ、特定健診受診率向上支援等共同事業負担金についてお伺いいたします。

先ほど川原田委員のほうからはほぼほぼ聞いていただけたので、あと教えていただきたい点は特定健診の受診率の推移と全道、全国との比較ということで、令和2年度もまだ最終的な数は出ていないと思いますが、わかる範囲で令和2年度の分までも教えていただければありがたいと思います。

**○清杉利明戸籍保険課長** 国保の特定健診の受診率の推移についてでございますが、平成29年度は23.4%、30年度は25.1%、31年度は24.0%となっております。また、令和2年度につきましても、新型コロナウイルスの影響もございまして、伸び悩んでいる状況でございますが、2月1日現在の速報概数値ではございますが、22.6%となっている状況でございます。

また、全道平均につきましては、29年度は28.1%、30年度は29.5%、31年度は28.9%となっており、こちらも31年度については新型コロナウイルスの影響もあり下がっているというふうに聞いております。

また、全国平均につきましては、29年度は37.2%、30年度は37.9%、31年度は38.0%となっております。

**○永本浩子委員** こういうふうに数を比べてみる

と、全道的にも網走市はかなりちょっと低いというか、全国と比べるとかなり差がついているわけなわけですけれども、その辺の要因はどういったところにあるとお考えでしょうか。

**○清杉利明戸籍保険課長** この受診率が全道平均、全国平均と比べて当市の率が低い状況でございますが、全道平均、全国平均が高いというのは、まず一つは町村における受診率が高いということと、市町村立の直診病院等がある市町村の受診率が高くなっている状況で、比較しますと当市においては低い状況にあるという状況でございます。

**○永本浩子委員** 低い要因を埋めるというのはなかなか、その辺に要因があるとすると難しい課題にはなるかと思いますが、周知の仕方というところで多分令和2年度から受診向上支援等の共同事業に参画をして、約500万円を払って今回やってみたということで、本当にコロナと重なってしまったのでなかなかその効果の程を見るのは難しいとは思いますが、ある一定期間でこれを続けていったほうが効果が出るか出ないかというところはきちんと検証していく必要はあるかと思いますが、その辺のところはどのようにお考えでしょうか。

**○清杉利明戸籍保険課長** まずこの共同事業につきましては、令和2年度より実施をしているところでございますが、2年度の状況の成果の検証というのは、先ほども御答弁させていただきましたが、コロナの影響もあり受診率も下がっているような状況でございまして、なかなか成果を検証するというのは難しい状況もあることから、令和3年度につきましても効果が高い、分析の上そこにターゲットを絞った中での受診勧奨も追加するというので、その成果が現れる状況まで複数年は実施したいというふうに考えております。

また、この事業につきましては、補助率が10分の10の事業でもございますので、市の負担はないというような事業でもございますので、複数年は継続していきたいなというふうに考えております。

**○永本浩子委員** 10分10ということで、予算計上されているけれども、市からの手出しはないということなので大変うれしく思います。そういったことでしたら、ぜひぜひ活用していただいて、本当に受診率を少しでもアップできるようにまた取

り組んでいただければと思います。

それでは、次に215ページの介護支援ボランティアポイント事業についてお伺いいたします。

令和2年から比べると若干増額になりましたけれども、まずその理由をお聞かせください。

**○高橋善彦介護福祉課長** 令和3年度予算額につきましては281万3,000円と、令和2年度より39万6,000円増額したところでございますが、これはボランティア活動実績に応じましたポイントが累計300ポイントとなった際に記念品を贈呈することとなっておりまして、制度開始から3年目を迎え達成される方が高齢者ふれあいの家のボランティアさんを中心に多数出られることが想定されるため増額したものでございます。

**○永本浩子委員** 非常にうれしい流れかと思えます。

ちなみに、その記念品というのはどういったものを考えていらっしゃるのでしょうか。

**○高橋善彦介護福祉課長** 記念品につきましては、網走市地元特産品の詰め合わせということで3,000円相当を予定しております。

**○永本浩子委員** それは大変楽しみになるかと思えます。

また、年代別のボランティアさんの構成人数とその人数の推移というのはわかりますでしょうか。

**○高橋善彦介護福祉課長** ボランティアの年代別構成につきましては、令和3年3月現在469名の方に登録いただいております、年代別では40代が12名、50代が17名、60代が112名、70代が223名、80代が102名、90代が3名となっております。

また、昨年度からは59名増加しておりまして、年代別では40代が5名、50代が5名、60代が18名、70代が25名、80代が6名の増加となっております。

**○永本浩子委員** 90代でもやってくださっている方がいるということ、登録なので実働があるかはまた別かもしれませんが、70代がやはり多いのだなということで、この70代の方たちは多分前からずっと関わってくださる方と、一番増えた人数も25名ということで、今の70代の方、本当にまだまだお若くこういったところでも活躍していただけていることがよくわかりました。また、40代、50代でも少しずつ増えているということでうれしく思います。

このメンバーでやっていただいているこのボランティアなのですから、活動の中身というのはどんな具合になっているのでしょうか。

**○高橋善彦介護福祉課長** この介護支援ボランティアポイント事業の活動の中身でございますが、こちら介護施設や障がい施設におけるボランティアというものと、網走市の介護予防事業に携わるボランティアの大きく分けてこの2つとなっております。

**○永本浩子委員** わかりました。

介護施設とか障がい者施設等でのボランティアは、どれぐらいの方が携わっていただいているのでしょうか。

**○高橋善彦介護福祉課長** ボランティアの活動実績でございますが、介護施設や障がい者施設における話し相手やレクリエーション補助などが6施設、団体で累計活動日数が299日、累計活動人数は490人となっております。

また、市の介護予防事業につきましては、高齢者ふれあいの家、らくらく健康トレーニング、ふまねっとなど、8事業で累計活動日数878日、累計活動人数が6,751人となっております。

**○永本浩子委員** 圧倒的に介護予防のほうに携わっていただいている方が多いのだと思います。

また、ボランティアポイントということで応援券が出されておりますが、その使い道は去年伺いましたけれども、使っていただいている順位というのはどういうふうになっているのでしょうか。

**○高橋善彦介護福祉課長** ボランティア応援券の利用状況でございますが、割合でバス、タクシー乗車料が69.3%、コミュニティーセンターや総合体育館などの施設利用料が24.4%、日帰り入浴料が4.9%、また網走監獄や美術館などの入館料が1.4%という状況となっております。

**○永本浩子委員** やはりバス、タクシー、交通費関係が一番使いやすいということだと思いますね。ありがとうございます。

それで、介護支援ボランティアなのですから、私も一般質問で質問させていただいたときに、他の自治体はほぼほぼ60歳以上という高齢者の方の対象のところが多い中で、当市といたしましては本当にすばらしいふれあいの家という、ほかの自治体からは多分うらやましがられているようなボランティア制度が長年かけて築かれていて、今後継者にどう引き継いでいくかというのが

一つの当市の大きな課題ということで、その後継者づくりにもつながるような形でお願いをして、多分この40歳からということにさせていただいたと思っております。

このふれあいの家の後継者づくりにつながるような、そういう動きというかは現在のところ見えているのでしょうか。

**○高橋善彦介護福祉課長** 当該事業はボランティア活動を通じた社会参加、地域貢献、健康増進を推進するとともに、ボランティアの継続と後継者の育成を支援するという目的で、先ほど委員おっしゃったとおり、対象者につきましては40歳以上としたところでございます。

高齢者ふれあいの家につきましては、御指摘のとおりボランティアの高齢化や後継者の育成が課題となっているところでございます。今年度新規でボランティア登録いただいた方が59名のうち、高齢化ふれあいの家で活動されている方は35名となっております。

今後とも当該事業がボランティアを始めるきっかけとなることを期待しているところでございますので、今後も周知ですとか、そういったところに力を入れていきたいというふうに考えております。

**○永本浩子委員** 59名中35名ということで、何か希望が見えてきたかなと思っております。

また、介護施設とか障がい者施設でのボランティアということが6施設ということで、先ほどお話があったのですが、介護現場での人手不足を解消して専門職の負担を軽減することで介護の質が上がることも目的の一つだったと思いますが、実際の介護現場では無資格のボランティアができる仕事がほとんどないという声もお聞きはしているのですけれども、施設によっても違うかと思いますが、実情はどのようなになっているのでしょうか。

**○高橋善彦介護福祉課長** 介護現場におけますボランティア活動でございますが、デイサービスセンターや介護老人保健施設、グループホームなどがボランティア活動の現在受入機関となっております。レクリエーション補助や利用者の話し相手となつていただくことで現場の介護職員が実際の本来業務といいますか、現場業務が忙しい中でなかなか時間を取れない、話し相手や話を聞くことができないといったところのサポートや見守りの

目になっていただくことが期待されるところでございます。

しかしながら、現在新型コロナウイルス感染症防止対策の観点から受入れが難しくなっている施設もございます。介護現場におけるボランティア活動が今現在は制限されている状況でございます。

**○永本浩子委員** そうですね。本当令和2年度はコロナがあったので、御家族もなかなか面会できないという状況でしたので、施設としての受入れもなかなか難しい部分があったかと思います。それでも299日、累計で490の方が介護施設また障がい者施設でボランティア活動していただいたということで、そういった中で先ほどのような声というのは今のところは聞いていないということではよかったのでしょうか。

**○高橋善彦介護福祉課長** 現在のところ、介護職員とのすみ分けですとか、そういったようなことはこちらのほうには耳に入っておりません。

**○永本浩子委員** これから続いていく事業ですので、コロナが収束をしてこういった活動もフルにできるようになった段階がこれから来るかと思いますが、こういったところの声もあるということも留意していただきまして、せっかくのこの介護支援ボランティア制度ですので、有資格者の介護職員も助かり、そして無資格のボランティアもやりがいを持てるように役割分担を明確化することが必要なのではないかと感じているところです。そういった声があるようでしたら、ぜひそういったところも対応していただければと思っております。

現在、スタートして2年ですけれども、この2年の中で見えてきた課題と今後の展望について伺います。

**○高橋善彦介護福祉課長** 現在、ボランティア登録者及びボランティア受入機関へのアンケート調査を準備しております。現在の情勢下におけるニーズを把握し、課題となっているボランティア活動へのマッチングや新たなボランティア登録者の獲得につなげられるよう事業活性化へ取組を進めてまいります。

**○永本浩子委員** 見えてきた課題等はまだどのようなのでしょうか。

**○高橋善彦介護福祉課長** 課題に関しましては、マッチングといいますか、受入機関と実際ボラン

ティアしたいという方のマッチングがなかなかちょっとうまくいっていないかなというところの課題が一つございます。

**○永本浩子委員** 了解いたしました。

アンケート等を通じて、この辺がスムーズに進んでいくようにまた取り組んでいただきたいと思います。

私からの質問は以上で終わらせていただきます。

**○山田庫司郎委員長** 次、松浦委員。

**○松浦敏司委員** 4つの特別会計に質問させていただきます。

初めに、市有財産整備特別会計についてであります。

先ほど川原田委員が質問して自主財源という話で、まさしく本来この市有財産特別会計というのは自主財源を確保する上で重要な役割を果たすというふうに思っているのですが、私も議員になって24年になるのですが、なかなかそういう議論ができなかったことを非常に残念に思うのですが、本来的にはそういう希望の持てる特別会計だというふうに思っています。

そこで伺っていきますが、歳入を見ますと、空き家対策総合支援事業交付金ということで253万6,000円、土地建物売払収入として2,278万5,000円、貸地料として978万8,000円、それから土地建物貸付料として238万2,000円と、ここには滞納繰越分3万円とあるのですが。そして潮見住宅団地貸付料として830万4,000円というふうに出ておりますが、それぞれ収入の内容について概略でいいのですがお答えください。

**○古田孝仁財政課長** 市有財産特別会計の歳入に関する御質問かと思います。

まず最初に国庫補助金でございますが、こちらは潮見住宅団地の個人から買い受け、その後市の職員に貸付けをしている住宅がございまして、そちらが老朽化したことから解体することといたしまして、その解体に対しまして国庫補助金が当たるということでございますので、今回活用させていただくものでございます。件数としては2戸分でございます。国庫補助の算定に当たりましては、国庫補助金の基準額の半分、50%ということとなっております。

次に土地建物売払収入でございますが、こちらにつきましては現在ホームページでも公開してお

ります向陽ヶ丘7丁目の土地、あと桂町の土地のほか、昨日御質問もございましたたんぼぼ保育園ですとか、そういうものも売却を見込んでいるものでございます。

続きまして、財産貸付収入のうちの貸地料でございますが、こちらにつきましては民間貸付け、民間の企業さんに貸し付けるものが702万5,000円、あと官公庁相手に貸しているものが218万6,000円、あと電柱ですとかそういうものが22万7,000円、あと一時的に貸し付けるものとして35万円を見込んでいるところでございます。

あと土地建物の貸付料でございますが、こちらは郊外地区にあります旧職員住宅等を地域のお住まいの方に貸しているものなどでございます。

続きまして、潮見住宅団地の貸付料でございますが、こちらは潮見住宅団地の個人から買い受け、その後市の職員に貸しているものでございます。その貸付料でございます。

内容はそのようなこととなっております。

**○松浦敏司委員** わかりました。

それで、貸地料の中で官公庁に土地を貸しているというようなことなのですけれども、具体的にはどこなのでしょう。

**○古田孝仁財政課長** 官公庁に貸し付けている土地でございますが、大きいものが駒場公園の上にあります東部耕地出張所の土地でございます。あともう1件ありますが、交番用地といたしまして、こちら西小学校のそばということでございます。

**○松浦敏司委員** わかりました。

次に伺います。

令和2年度の潮見住宅団地の調査の件数と結果について伺います。

**○古田孝仁財政課長** 潮見住宅団地の傾きの家屋の調査でございますが、今年度につきましては昨年より1件減りまして2件の家屋調査を行っております。こちらの2件ともAランクということで変わりはありません。

**○松浦敏司委員** わかりました。

それから、解体作業を潮見の7丁目でやっているのを今月見たのですけれども、解体作業というのは令和2年度は何件あったのでしょうか。

**○古田孝仁財政課長** 潮見住宅団地の解体でございますが、個人住宅2戸を行っております。

**○松浦敏司委員** わかりました。

それから、いつも聞いているのですけれども、要観測地、それから隣接地域、今後も一定の期間は監視する必要があると思うのですが、その辺でのお考えを伺います。

**○古田孝仁財政課長** 団地全体のエリアのことかと思いますが、傾き調査につきましては築後30年をめどということで調査を行っておりますので、30年以降経過したものについては調査のほうは行っておりませんが、対象地域で条件に合った物件につきましては市のほうで買取りをさせていただき流れになっておりますので、そちらにつきましてはお住まいの方と適時コミュニケーションを取りながら対応してまいりたいと考えているところでございます。

**○松浦敏司委員** 非常に大事なことだというふうに思います。

それで、これも毎年聞いているのですけれども、この潮見住宅団地の軟弱地盤対策に使われてきた総額というのはどのぐらいになりますか。

**○古田孝仁財政課長** これまでの潮見住宅団地の対策にかかった総事業費でございますが、令和2年度、今年度決算見込みを含めまして37年間で24億7,498万円になると見込んでいるところでございます。

**○松浦敏司委員** 大変な金額がここに使われたということで、これはこれとしてどうしても必要なことであったわけですから、やむを得ないことではあるというふうには思います。

この間、地盤沈下でせっかく建てた家に住むことができないという市民の皆様には大変迷惑をかけたのだらうなというふうに思いますし、そういった人たちも含めて多くの市民の理解があって、こういった対応をできたのだというふうに思います。

私も議員になって24年になるのですが、26年前当選したときに最初に、翌年だったと思いますが、地域を訪問している中でお茶の間懇談会をやる中で潮見4丁目の市営住宅が傾いているという話を聞いて、そこから私が関わることになってもう既に26年になるのですが、その以前は潮見の9丁目、10丁目で最初に昭和52年前後だったと思います。51年かな、頃にもととの最初はそこだったというふうに思います。

いずれにしてもそういう中で、大変な住宅が傾くというようなことで住めなくなったということ

で、結果としてそこに丁寧な対応をしてきたというのは私も承知しております。昨年まではこれについては反対をしてきましたけれども、今年は反対はしないつもりですが、いずれにしても大事な仕事でこれからも丁寧に対応していったほしいということを要望したいというふうに思います。

次に移ります。

国民健康保険特別会計についてです。

2018年に都道府県化がスタートして3年がたちます。国はこれに基づいて毎年3,400億円の公費を投入してきております。都道府県や市町村が災害、景気変動により国保財政が、財源が不足になったときに貸付交付を行う財政安定基金は2018年度から積立て、総額がおおよそ2,000億円になり、2021年度も維持されることとなったと聞いています。

そこで、歳入で保険料が前年より5,000万円ほど減少しておりますが、これはコロナによる影響なのかなというふうに思うのですが、この減少を見込んだ内容について伺います。

**○清杉利明戸籍保険課長** 保険料の予算が減額している理由でございますが、保険料総体としては約5,000万円の減額のうち一般被保険者の現年分の保険料で約4,900万円減額しておりますが、その理由としましては、北海道におけます納付金総額につきましては被保険者数の減少に伴い約18億円減額すると見込んでおりまして、当市の被保険者数も令和2年度当初から約300人減少すると見込んでおります。それに伴いまして、網走市分の納付金につきましても減額することから、現年分の保険料も約4,900万円減額することとなっております。

**○松浦敏司委員** そうすると、これはコロナの影響によるものではなくて、被保険者が減少する見込みだということですが、網走市でそれほど300人も減少する見込みというのはどういった関係の人たちが減るのか、その辺はわかりますか。

**○清杉利明戸籍保険課長** その内訳までは把握してはおりませんが、大きくは75歳になりますと後期高齢者の医療制度のほうに移行しますので、その分で減少するのが大きな原因となっております。

**○松浦敏司委員** 理解しました。

急速に高齢化が進んでいて、後期高齢者医療に移行するというところで理解しました。

次に、コロナによって一定程度収入が下がった被保険者に対し国保料等の減免を行った自治体に財政支援することができるというふうになっていますが、網走市としてはその辺どのようになっているか伺います。

**○清杉利明戸籍保険課長** 国民健康保険におけます新型コロナウイルスの影響によります保険料の減免制度についてでございますが、本年2月1日現在の状況でございますが、現年分におきましては34件、金額で約540万円、過年度分で29件、金額で約68万円、保険料の減免を行っている状況でございます。

**○松浦敏司委員** わかりました。

次に、新年度から資産割がなくなるということで、結果として所得割というのにその分は行くのだろうというふうに思いますし、あと均等割と平等割で計算させることになっていきますが、具体的な提案というのは6月議会になるのだというふうに思いますが、賦課限度額や中間所得層への影響など当然出てくると思うのですが、賦課限度額についてはどうなるのか、そういったことを含めて見通しについて伺います。

**○清杉利明戸籍保険課長** 令和3年度より賦課方式の一つとして資産割を廃止いたしますが、実際の保険料率につきましては令和2年中の所得の確定後、被保険者数、世帯数等を勘案しまして、国保の運営に関する協議会において審議され、答申を受けた後決定されるものでございますが、予算におきましては令和2年の資産割を廃止した後の料率を基に試算をしており、資産割の廃止に伴う保険料の影響額につきましては約1,700万円と見込んでおりまして、その分につきましては予算上におきましては基金繰入金を計上している状況でございます。

それから、令和3年度におきます賦課限度額につきましては、医療分、後期支援分、介護納付分含めた合計で99万円が据え置くことが国において決定されておりますので、それに基づきまして当市におきましては据え置く予定でございます。

**○松浦敏司委員** わかりました。

この99万円を8回で払うわけですから、いかに大変かと。

次に、現在の基金について幾らあるか伺います。

**○清杉利明戸籍保険課長** 国民健康保険事業準備

基金の残高についてであります。現在のところ約2億8,000万円となっております。

**○松浦敏司委員** 私どもはこの基金というのは、ゼロにすればいいというふうには思いませんが、一定程度やはり持っておく、あればいいと思うのですが、果たして2億8,000万円がそのままでいいかという点では、やはりここを大いに活用して保険料を抑えるために、これから5月の段階でいろいろやると思うのですが、工夫していく必要があると思うのですが、その辺での見解を伺います。

**○清杉利明戸籍保険課長** 基金の活用についてでございますが、病状といいますか、今回の新型コロナウイルスもそうでございますが、予期せぬようなほかのインフルエンザがはやるですとか、そういう状況にも備える必要があり、一定額につきましては基金を保有する必要があるかとは思っております。

今後におきましては、料率の審議に当たりましては基金の活用も含めて、また今後標準料率の統一化に向けて、大きな率の上昇を抑えるという意味からもこの基金を活用したいというふうには考えておりますので、その時々状況にもよりますが、いろいろと勘案しながら決定したいというふうに思っております。

**○松浦敏司委員** わかりました。ぜひ有効に活用していただきたいというふうに思います。

次に、国保料の収納率と滞納状況について、ここ3年ぐらいの数字があれば教えてください。

**○清杉利明戸籍保険課長** 収納率の推移でございますが、現年分に絞ってお話しさせていただきますが、平成29年度が95.04%、30年度が95.46%、31年度が95.71%となっております。また、本年の1月末の収納状況でございますが、現年分で76.18%となっており、前年同月比で0.22ポイントほど上昇しているような状況でございます。

また、滞納状況につきましては、こちらも1月末の状況でございますが、未納世帯数は493世帯で全世帯に占める割合としては9.7%となっております。31年度の滞納状況につきましては、滞納世帯数は485世帯で、割合としては8.4%という状況でした。

**○松浦敏司委員** わかりました。

それで、令和2年度でいえば、2月いっぱいまで国保料を納めるわけですから、これはほぼ前年

並みの収納は見込めるというふうを考えてよろしいでしょうか。

**○清杉利明戸籍保険課長** 前年同月比で見ますと、ほぼ同様な収納率となっておりますので、決算におきまして前年同様の95%程度は維持できるのかなというふうには考えております。

また、先ほどもお話がありましたけれども、コロナの影響により減収が30%以上あった世帯につきましては保険料の減免制度もありますので、そちらのほうで対応しているという状況もあり、収納率としては前年同様な率を確保できる見通しでございます。

**○松浦敏司委員** わかりました。

次に、滞納状況が続いていて、結果として差押えをせざるを得なかったところがあるというふうに思うのですが、その件数はどのぐらいあるのか伺います。

**○清杉利明戸籍保険課長** 差押えの件数につきましては、まず本年の1月末の状況で98件、内訳としましては預貯金が73件、国税還付金が9件、給与等が6件、その他が10件となっております。

また、31年度につきましては141件で、その内訳は預貯金が88件、国税還付金が24件、自動車税還付金が11件などとなっております。

**○松浦敏司委員** 取りあえずわかりました。

それで、あと短期証と資格証の発行についてはどのぐらい、それぞれ伺います。

**○清杉利明戸籍保険課長** まず資格証のほうの交付につきましてはいずれも2月1日時点で比較しておりますが、30年2月1日時点で30世帯、31年2月1日時点で29世帯、令和2年2月1日時点で30世帯となっております。また、直近の本年2月1日現在で28世帯となっている状況でございます。

次に短期証の交付につきましては、30年2月1日で339世帯、31年2月1日で297世帯、令和2年2月1日で292世帯となっており、直近の本年2月1日現在では240世帯となっております。

**○松浦敏司委員** 短期証は多分ほとんどが3か月なのだろうというふうに思いますが、あと資格証ですね。これは大体ここ数年は30件前後ということで、こういった人たちが実際に病院に行くときには窓口で全額払わなければならないということですから、相当厳しいことになると。払わないのが悪いのだといえればそれはそのとおりなのですが

れども、ただ払えない事情もあってということも中にはいらっしゃると思うのです。そういう意味では、この資格証というのはやはり命に関わる極めて重要なもので、慎重でなければならないというふうに私は思っているところです。

次に、健診助成について内容と状況について伺います。

**○清杉利明戸籍保険課長** 健診助成事業の内容でございますが、まず人間ドック、脳ドック、それから各種の集団健診におけますがん検診、それから歯科検診におきまして、その全額または一部を助成しているような状況でございます。

人間ドックにおきましては本年2月1日現在で129名、平成31年度が130名、脳ドックにつきましては本年2月1日現在で172名、31年度が173名、それから健診助成のほうは合計でございますが、本年2月1日で1,923名、31年度が3,205名、それから歯科検診のほうが本年2月1日で4名、平成31年度が17名となっております。

**○松浦敏司委員** 集団健診が一気に3,205というふうになっているのは、それから歯科検診もこの年は増えているのですけれども、これは何か特殊な事情でもあってこれだけ増えているのでしょうか。

**○清杉利明戸籍保険課長** 特にこれといった理由は把握はしていないのですが、国保を含めて保健センターのほうも含めていろいろと周知にも努めているところでございますが、そういうことも影響しているのかなというふうには感じております。

**○松浦敏司委員** よりこういう健診というのが増えるのが、病気を初期段階で発見するという点でも非常に大事なことだというふうに思いますので、努力をしていってほしいと思います。

それから特定健診については先ほど同僚委員が質問しておりましたが、なかなか伸び悩んでいると。全道とか全国では町村の病院があると、直轄の病院があるというようなこともお話がありました。

網走の場合、特定健診を受ける場合、厚生病院がすぐ頭に浮かぶのですが、そのほかにどういった病院があるのでしょうか。

**○清杉利明戸籍保険課長** 市内におきましては、集団健診のときのほか、厚生病院を含め市内で10か所程度の基本的には内科のある病院については

ほぼ特定健診の受診はできるようになってございます。

**○松浦敏司委員** そういう意味では、こういったクリニックなどの協力も得ながら、この特定健診の周知というのを図っていく必要があるのかなというふうに思いますので、その辺もぜひ検討してやってほしいというふうに思います。

次に、後期高齢者医療について伺います。

この保険は言うまでもなく75歳以上の高齢者を囲い込んで2年に一度の保険料の見直しということで、75歳以上の高齢者にとっては大変厳しい保険制度となっております。窓口負担を今年収200万円以上の加入者は2割負担にということで閣議決定されて、今の通常国会で審議がなされているところで、結果どうなるかわかりませんが、これは代表質問でも聞いたわけですが、その辺改めて簡単にでもいいので御説明いただきたいと思います。

**○清杉利明戸籍保険課長** 75歳以上の窓口での2割負担への引上げにつきましては、年収200万円以上の方につきまして原則1割から2割へ窓口負担を引き上げるというものでございます。

また、代表質問でも答弁させていただきましたが、全国市長会におきましても窓口負担の引上げについては必要な受診が抑制されないよう低所得者に十分配慮するという要望をしております、それも取り入れられた中で3年間1か月分の負担増を最大でも3,000円に収まるような措置が検討されているというふうに聞いております。

**○松浦敏司委員** これは政府の言い方としては、若い世代が収入も当然低いし子育てにお金がかかるから、その分を一定の収入のある高齢者に負担をしていただくというような、そういう基本的な考えがあってということですが、年収200万円というのがあまりにも低すぎるというふうに私は思います。月額16万7,000円の年金をもらっていればここに引っかかると。それが窓口で2割負担となると、これは生活そのものに非常に影響を与えると。病気ができない。そういう意味では、病気をしないための政策も取っていかないと駄目だというふうに思うのですが、そういう制度だということで非常に問題があるというふうに思っています。

そこで伺いますが、保険料の軽減についてどのような軽減があるのか伺います。

**○清杉利明戸籍保険課長** 保険料の軽減制度につきましては、7割、5割、それから2割軽減の3つに大きく区分されておりまして、現在のところは経過措置としてその軽減割合を7割軽減の部分におきまして引き上げている状況でございます。ただ、令和3年度からは原則7割軽減への段階的に見直しをしてきておりますが、7割軽減に統一されることになります。

**○松浦敏司委員** そういう意味では、より一層高齢者は大変だというふうに思います。

次に、健康診査についてどのような状況か伺います。

**○清杉利明戸籍保険課長** 健康診査の受診率についてでございますが、令和3年1月末の状況でございますが8.43%となっております。また、平成31年度は12.65%、平成30年度は13.45%となっております。

**○松浦敏司委員** それは全道平均とか全国平均から見れば、この診査というのはどんな状況なのかわかりますか。

**○清杉利明戸籍保険課長** 全道平均におきましては、平成31年度が13.94%、平成30年度が14.24%となっております。また、全国平均におきましては、平成30年度しかまだ公表されていないですが、平成30年度は29.4%となっております。

**○松浦敏司委員** やはりここでも国保と同じように後期高齢者でも網走の、国保では特定健診というのですが、この後期高齢では健康診査というふうになっていますが、ここでも全国、全道より低いということで、これはやはり国保と同じように、直営の病院とかが全道でいえばたくさん町村ではあるというようなことがやはり影響しているというふうに考えてよろしいのでしょうか。

**○清杉利明戸籍保険課長** 後期高齢者のほうの健康診査につきましても同様な状況かというふうに認識しております。

**○松浦敏司委員** 後期高齢者、先ほどちらっと言いましたけれども、窓口負担が2割になれば病院にかかりたくてもそう簡単にかかれないというようなことを考えたときに、やっぱり早期発見、早期治療という点からすると、この健康診査というのは非常に大事な診査になると思いますから、これはぜひもっと推進して、この診査が引き上がるような努力をしていただきたいというふうに思います。



次に、短期証、それから差押えについて、もしあれば伺います。

**○清杉利明戸籍保険課長** まず短期証のほうの交付状況でございますが、本年2月1日現在で16人、それから平成31年4月1日で18人という状況になってございます。それと令和2年4月1日で18人という状況でございます。

それから差押えのほうの状況でございますが、本年1月末現在での差押え件数は預貯金5件となっております。また、平成31年度の差押え件数につきましては7件で預貯金が6件、生命保険の解約が1件となっております。

**○松浦敏司委員** 後期高齢者にとって少ない預貯金からというふうに徴収されるとは本当に大変だと。この後期高齢者医療そのものが1万5,000円以上の年金があれば差し引かれるというふうな非常に過酷な制度だというふうに言わなければなりません。いずれにしてもこの状況についてはわかりました。理解したのではなくわかりました。

次に最後、介護保険についてです。

第8期の介護保険事業が新年度から始まりまず。代表質問でも第8期計画の保険料の基準となる第5段階の保険料についての答弁で、月額5,987円となり、第7期と比較して700円上昇する。しかし上昇を抑えるために基金から7,500万円投入して、基準保険料を5,799円に抑えたとのことでありました。

そこで伺いますが、基金は現在幾ら残っているのか伺います。

**○高橋善彦介護福祉課長** 基金の状況でございますが、令和2年度末で約1億5,000万円の基金残高となる見込みでございます。

**○松浦敏司委員** そうすると、この令和2年の段階で、1億5,000万円のうち7,500万円を投入して5,799円の基準保険料に抑えたということで捉えてよろしいでしょうか。

**○高橋善彦介護福祉課長** 委員お見込みのとおりでございます。

**○松浦敏司委員** 次に伺いますが、介護給付費負担金についてであります。介護保険の財源は各種国保補助や市町村介護保険料等によって賄っております。その一つが、市町村が行う介護事業運営を安定するための介護保険法に基づく国から市町村に対して介護給付費を負担金として交付すると。それでこの交付金はどのようなものか伺いたい

のと、あと調整交付金というのがありますが、これについても伺います。

さらに、介護保険者努力支援交付金、保険者機能強化推進交付金というのがありますが、この交付金についてそれぞれどんなものなのか伺います。

**○高橋善彦介護福祉課長** まず調整交付金についてですが、こちらは保険給費に占める国の負担分約25%のうち定率分が20%、残り5%が調整交付金となります。各保険者の高齢者中の後期高齢者の割合と高齢者の所得状況の格差等を基に算定されるものでございます。網走市は令和2年、3年とも過去の実績から約5.5%を見込んでいます状況でございます。

また、保険者機能強化推進交付金と保険者努力支援交付金の2つの交付金につきましては、高齢者の自立支援、重度化防止につながる取組を積極的に行った市町村を評価し、その評価に基づいて自治体に交付金が支給される制度でございます。

具体的には、保険者機能強化推進交付金は通いの場への参加促進や重度化防止に関する目標の設定や進捗管理、ケアプラン点検などの介護給付費や介護給費適正化の取組などを行っている市町村に対して交付されるものでございます。また、保険者努力支援交付金は予防と健康づくりに特化し、生活支援体制の整備の取組や総合事業の多様なサービスの創出などに取り組んでいる市町村に対し、高齢者人口等も加味され交付金額が決定されるものでございます。

なお、本交付金につきましては、地域支援事業の財源への充当や新規事業への充当が認められているところでございます。

**○松浦敏司委員** この介護保険というのは、今伺った保険者努力支援交付金とか保険者機能強化推進交付金というのは、どれだけ各市町村が頑張って介護保険の仕事をしているかというような査定のようなものなのかなというふうにも私は受け取ったのですが、そんなときに網走市も今回結果として保険料が上がらざるを得ないというのは、それは私は頑張ってきたからいろいろな施設ができたり、いろいろなサービスをやってきたと、その結果として、介護保険制度というのはやればやるほど結果としては保険料に跳ね返るという弱点といいますか、欠陥を持ったものだというふうに思っていて、そういう意味では、網走市は

相当頑張っているのだというふうに、私はある意味では評価しているのです。ところが、それが保険料に跳ね返ってしまって、加入者が今実は支払いが大変だというのが、私のところに届いているし、去年の暮れにやったアンケートの中でも、高齢者の皆さんで一番多かったのは介護保険料が高すぎて困ったという、これが一番なのです。

頑張った結果、こういうふうになるのですけれども、ここが実は本当に矛盾で、これまでも私も何度も言ってきています。頑張った分国が負担するのならいいのです。であれば、加入者に直接行かない。つまり国が介護保険制度に移ったことによって、これまでの負担とは違って4分の1を国が負担すればいい仕組みになってしまったと。ここが最大の問題で、ここを元に戻すなりそれに近づければ、この介護保険というのはもっともって使いやすく、そして安心して加入者がこの制度を使えるのだというふうに思うのですが、ここが一番の問題だと私は思っているのですが、その辺でもし見解があれば伺います。

**○高橋善彦介護福祉課長** 今、委員おっしゃるとおり、サービスが充実してまいりますと保険料もおのずと上昇してまいります。また、高齢者人口も増えますとそれなりに認定者も増えていくという観点から、保険料が上昇するものと考えておりますが、積極的な介護予防活動ですとか、そういったところに力を入れながら、保険料の上昇の抑制に努めてまいりたいというふうに考えております。

**○松浦敏司委員** そういう答弁でいいかと思います。

次に移りますが、介護保険料は段階ごとにあります。網走の場合は12段階というふうになっておりますが、それぞれ1段階から12段階までの人数をお示しいただきたいと思います。

**○高橋善彦介護福祉課長** 第1段階から第12段階の人数でございますが、まず第1段階が2,122人、第2段階が1,196人、第3段階が997人、第4段階が1,203人、第5段階が1,196人、第6段階が1,874人、第7段階が678人、第8段階が765人、第9段階が349人、第10段階が211人、第11段階が377人、第12段階が293人の合計1万1,261人となっております。

**○松浦敏司委員** 今、聞いたばかりですから、どうこう評価できませんが、やはり段階が上に行く

に従って、とりわけ10段階以上になるとぐっと人数が減っているということは言えるのかなという、見ただけではそう思ったのと、やはり第1段階の人が2,000人ということで、ここも非常に収入の少ない人たちが多いのだろうと。第1段階から第3段階まででもう3,000人ですから、相当いるのだなというふうに思います。わかりました。

低所得者への軽減措置というのは、第1段階から第3段階まであるのだろうというふうに思うのですが、その辺、軽減措置の数は今言った1から第3までのこの人数がそれだというふうに捉えてよろしいのですか。

**○高橋善彦介護福祉課長** 委員お見込みのとおり、第1段階から第3段階までに該当する方について低所得者保険料の軽減が受けられるものでございます。

**○松浦敏司委員** わかりました。

先ほども私言いましたけれども、7,500万円多分残るのだろうというふうに思うのですが、保険料が少しでも低く抑えられるように努力をしていってほしいというふうに思います。

やはり保険料が高すぎるということが非常に市民の声として上がってますし、そういう点ではそのことをしっかり捉える必要があるし、とにかくこの介護保険料が高くて苦しんでいるというのは間違いない、これは事実ですから、その点では私も担当課長や部長は非常に苦しいのだろうというふうに思いますが、より市民の目線でこの事業を推進していってほしいものだというふうに、問題意識を持ちながら、それはそれとして要望して終わりたいと思います。

**○山田庫司郎委員長** 以上で、本日の日程であります特別会計、公営企業会計並びに関連議案1件の細部審査を終了します。

本日は、これで散会とします。

再開は、明日午前10時としますから、参集願います。

御苦労さまでした。

午後2時10分 散会